

AMD－USB－CAT－CW－SOUND Ver1 (CW無し) 取扱説明書

1. 概要

USB接続の、1チャンネルのFTDI社製RS232C変換ICのFT231XSを使用した、アマチュア無線用のTTLレベルのリグコントロール(CAT)、AFSKとFSKのデジタルモード(RTTY、FT8、SSTV等)の運用が可能なインターフェースです。

リグコントロール(CAT)用にRXDとTXD、デジタルモード用に出力(RTS=PTT、FSK=DT R)を割り付けています。

パソコンのマイク入力から受信し、AFSKモードの場合、パソコンのスピーカ出力から、変調用出力を送出します。

FT8用のWSJT-XやJTDXでは、CAT制御で、周波数設定、読み込み、PTT出力で、送受信切り替えが可能です。

MMTTY、MMSSTV、MMVARIの場合、PTT出力で送受信切り替え、FSK出力で周波数シフト制御が可能です。CAT制御で、周波数設定、読み込み、はできません。

2. USBドライバのインストール方法

FTDI社のインストールガイドによると、Windows VISTA、7、8、8.1、10、11の場合は、インターネットが接続された状態で、USBポートに接続すれば、自動的にUSBドライバがインストールされるとのことです。

インストールガイドは、下記より、ダウンロード可能です。正常にインストールされなかった場合のトラブルシューティングの記載もあります。

<https://ftdichip.com/document/installation-guides/>

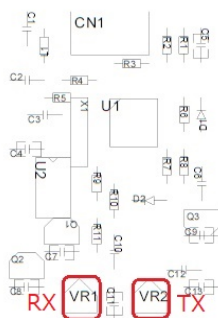
英文ですので、必要であれば、Google 翻訳等で、翻訳をお願いいたします。

また、USBドライバ(VCPドライバ)は、下記からダウンロード可能です。

<https://ftdichip.com/drivers/vcp-drivers/>

3. ボリュームの設定

ボリュームは、VR1が音声入力(受信、RX)レベルの調整用、VR2がAFSKモードでの、音声出力(送信、TX)レベルの調整用です。



4. パソコン、無線機との接続方法



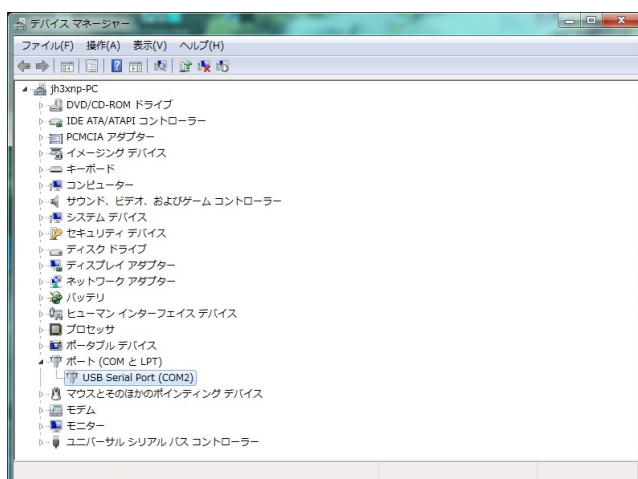
コネクタは、左上から、右回りに、下記のとおり接続してください。

- (1) USB (パソコンのUSB端子と接続用) : USB Bタイプコネクタ
- (2) CAT (無線機のリグコントロール端子との接続用) : ICOM時 3.5mmモノラルミニプラグ
YAESU FT-100/FT-100D/FT-817/FT-818/FT-857/FT-897 時 ミニDIN8ピンプラグ
YAESU FT-757GXII/FT-840/FT-850/FT-890/FT-900 時 ミニDIN6ピンプラグ
FT-1000/FT-1021/FT-736/FT-747/FT-767/FT-980/FT-990 DIN6ピンプラグ
- (3) ACC (無線機のアクセサリ端子かDATA端子等の接続用) : リグにより異なります。
- (4) SP (パソコンのスピーカ出力との接続用) : 3.5mmステレオミニプラグ
- (5) MIC (パソコンのマイク入力との接続用) : 3.5mmステレオミニプラグ

5. 本装置が割り付けられているCOMポート番号の確認

パソコンの「スタート」→「コントロールパネル」→「デバイスマネージャ」を開きます。

ポート (COMとLPT) の左の三角矢印をクリックすると、COMポートが表示されます。本例の場合COM2に割り付けられています。



6. 無線機のメニューモードの設定

無線機のDATA端子を使用するために、無線機側の設定が必要な場合があります。

例えば、FT8の場合は、下記設定が必要です。

(1) FT-817とFT-818の場合、メニューモード26のDIG MODEをUSER-Uに、リグのモードはDIGに変更が必要です。

(2) FT-857とFT-897の場合、メニューモード001のEXT MENUをONに設定後メニューモード3のDIG MODEをUSER-Uに、リグのモードはDIGに変更が必要です。

(3) FT-100とFT-100Dの場合、メニューモード34のAFSK MODEをPKT-Uに、リグのモードはDIGに変更が必要です。

詳細は、無線機の取扱い説明書を、ご参照ください。

*** 以下、ご使用になるモードに必要なソフトをインストールしてください。**

複数のソフトの同時起動はできません。

7. MMTTYの設定方法

CAT制御は、使用しません。デジタルモード出力(PTT, FSK)を、使用します。

(1) JE3HHT局のホームページ <http://je3hht.g1.xrea.com/mmtty/index.html> から、

MMTTYおよびEXTFSK Sample (extfsk106.zip)をダウンロードしてください。

(2) MMTTYを、パソコンにインストールしてください。

(3) extfsk106.zip を、MMTTYの入っているフォルダに解凍します。

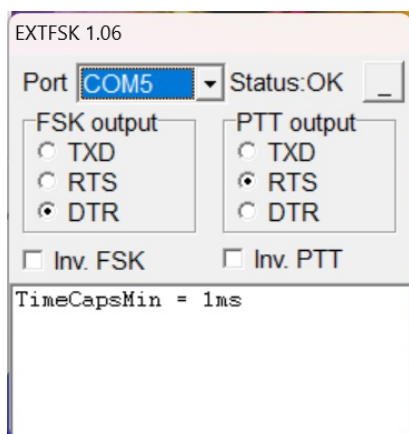
(4) MMTTYを起動し、オプション→設定画面→送信を選択すると下記画面となりますので、PTTのポートをEXTFSKに設定しOKをクリックします。



(5) すると、下記画面が立ち上がりますので、デバイスマネージャで本機が割り付けられたCOMポート番号を確認し設定します。

(下記の場合COM5)

また、FSK outputをDTRに、PTT outputをRTSに設定します。



(6) FSK出力を行うには、オプション→設定画面→その他を選択すると下記画面となりますので、送信ポートをサウンド+COM-TxD(FSK)に設定しOKをクリックします。

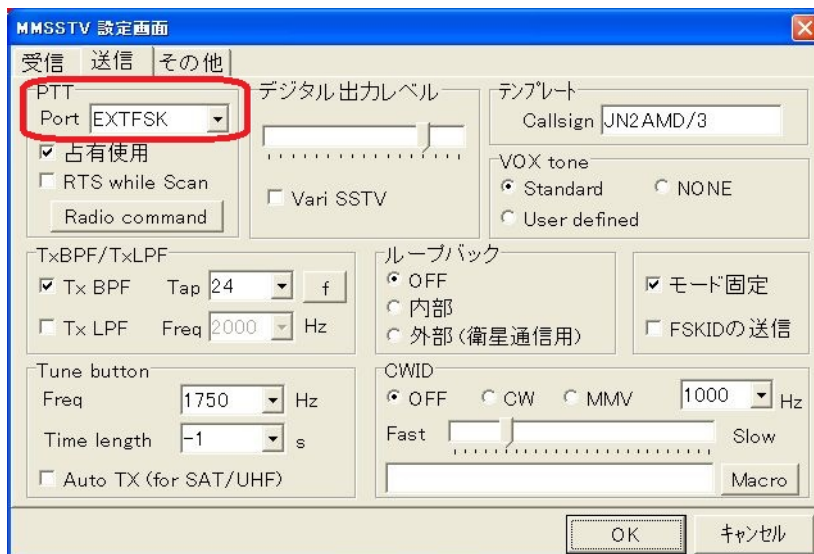


以上で本装置に関するMMTTYの設定は、完了です。

8. MMSSTVの設定方法

CAT制御は、使用しません。デジタルモード用出力(PTT)を、使用します。

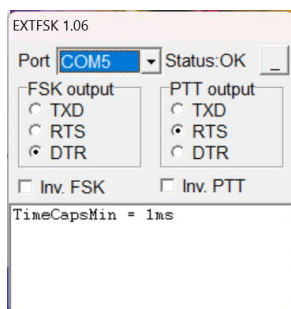
- (1) JE3HHT局のホームページ <http://je3hht.g1.xrea.com/mmsstv/index.html> から、MMSSTVおよび EXTFSK Sample (extfsk106.zip)をダウンロードしてください。
- (2) MMSSTVを、パソコンにインストールしてください。
- (3) extfsk106.zip を、MMSSTVの入っているフォルダに解凍します。
- (4) MMSSTVを起動し、オプション→設定画面→送信を選択すると下記画面となりますので、PTTのポートをEXTFSKに設定しOKをクリックします。



(5)すると、下記画面が立ち上がりますので、デバイスマネージャで本機が割り付けられたCOMポート番号を確認し設定します。

(下記の場合COM5)

また、FSK outputをDTRに、PTT outputをRTSに設定します。



以上で、本装置に関するMMSSTVの設定は、完了です。

9. FT8 (WSJT-X、JTDX)での設定方法

COMポートが、COM2に割り付けられている場合の設定方法を示します。

WSJT-Xまたは、JTDXを起動します。

ファイル(File)→設定(Settings)→無線機(Radio)を選択すると下記画面となります。

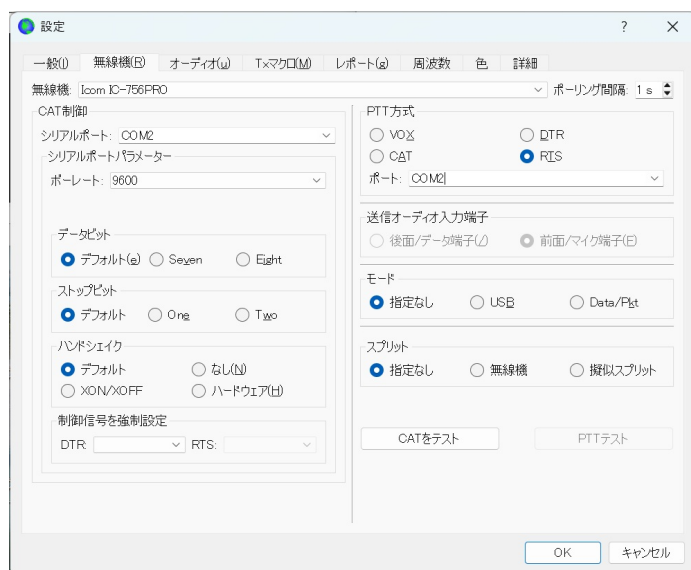
Rigの欄で、無線機の型名を選定します。(本例では、Icom IC-756PRO)

CAT ControlのSerial Portの欄で、COMポート番号およびボーレートを設定します。(本例では、COM2、9600BPS)

PTT MethodでPort欄にCOMポート番号を設定し、RTSを選択します。(本例では、COM2)

CAT制御で送受信が切り替え可能なリグの場合は、PTT MethodでCATを選択してもOKです。

WSJT-Xでの設定画面は、下記です。(JTDXの場合も同様です。)



CATテストのボタンを押して、ボタンが緑色になれば、CAT機能は正常に働いています。
PTTテストのボタンを押して、リグが送信状態になれば、PTT機能は正常に働いています。
下部の OK ボタンを押して、本インターフェースに関する設定は終了です。

10. Turbo Hamlog 使用時の注意事項

Turbo Hamlog は、初期設定で、RTS信号がONで起動します。

本商品は、RTS信号をPTT信号に割り付けていますので、そのままでは、起動時無線機が送信になってしまいます。

対応方法としては、HAMLOGW.INI の[RigCom]に、下記コマンドの追加をお願いします。

RTS?=0(?は、本商品が割り付けられているCOMポート番号)

このように記述すると、割り付けられている COM ポートのRTS信号が、OFFのまま起動します。

詳細の設定方法は、Turbo Hamlog のヘルプの「リグ接続設定」を、ご参照ください。

以上